

---

# レクイエム

妄想素人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

レクイエム

### 【Nコード】

N1047Y

### 【作者名】

妄想素人

### 【あらすじ】

化け物が突然あらわれた。そして世界が崩壊した。そこで優歌は夜音達と出会い…神や魔、人、人でなくなった者達の戦いのなかにこの化け物は何なのか……優歌が進む道は……。

異能・化け物・神などが出てくる、バトルあり恋愛？ありのバトルファンタジー。

## 始まりと出会い

7月16日

誰も知らない  
誰もみえない  
誰も行けない島

その島の奥に、封印されている者がいる。  
ガキヤギイ ゴンバリイドス…ガチャ。      その封印が  
解  
けた。

いや…破壊された。

「…………ツカハ、ふう」

封印されていた男が出てきた。

『久しぶりです。夜音様<sup>ヤオト</sup>』

と、二人の女が声をそろえて言った。

この二人の女は、マントのようなものを着ていて姿がよくわか  
らない。

「おお!!! 久しぶりだな。マヤ! カヤ!!!」  
夜音が言った。

『はい』

二人は嬉しそうに返事をした。

「オレモイルゾ。ヤオト」

黒い狼が来た。

「ん?! おお、久しぶりだなフェル。……ライ・ケイ・ヒヨ

すると、隅にいた三匹の犬が、

ザザッ

「……………」黄色い犬

「……………」朱い犬

「……………」青い犬

……………何も答えなかった。

「……………」そうか、始まるのか」

『……………はい』

「ドウスル、ヤオト」

夜音・マヤ・カヤ・フェルは話し合った。

「俺達も動くぞ……………」《救われぬ者に鎮魂歌を 使えぬ神なら

殺してしまえ》 壊」

ツビギヤ!!!!!!

すると、何かが黒く光って消えた!!

「ハジマル」

「……………ああ、終わりが始まる……………神のな!!」

そして《崩壊》が動きだした……………。

7月24日

朱い紅い赤い!! 世界が赤く 染まっていく……………

世界が崩壊してしまった。

突然、化け物が世界中に出現したのだ。そして化け物は、人を

殺し・喰って・破壊していった。

最初は抵抗はしていたのだが…今はもうわからない。  
しかし、これだけはいえる…世界は崩壊してしまった。

7月27日

ダダダッダッダ…

「っん…ハアハアはあ」

桜優歌は逃げていた。彼女は茶髪のショートカット、身長15  
5cmくらいで綺麗というより可愛い印象だ。

(もう嫌!!何よこれ)

優歌は内心つぶやいた!

こないだまで何もなかったのに!あんな…わけの分からない化け  
物のせいで…世界が終わっちゃうの!?

その時、

「…た・す・けて…」

と目の前の血まみれの少年?だったものが呟いた。

「ひつい! いや」

優歌は逃げだした。

近くのコンビニに隠れた優歌は

「…もう…嫌……………誰か助けて」

と泣いていた。

「ガッジャン!パキン!!バリバリバリ!!」

何かが窓を割って入ってきた!

レジの所に隠れている優歌はパニックになった。

そして、入ってきたものをみた。

そこには、紅色（たぶん血だろ）に染まった白い蛇の体に頭が花？の化け物がいた。

しかも、その大きさが半端じゃない、大人を簡単に丸のみでできるくらい太いし、10m以上は確実にある。

「な何よあれ……死にたくないよ」

優歌は腰が抜けてその場から動けなかった。

5分近くたった…優歌はまだレジにいた。

白い化け物はまだ近くをうろろしている。

「早くどっか行ってよ」

と呟き、足をくみかえた。

すると……ゴト……と、ケータイがポケットから落ちた！

……………ザッザザ！！

白い化け物がこつちに来た！！

「！！っえ、っっひっ！ やめて…ゆ許して、お願い」

しかし、化け物は頭を近づけてきた！

「いいやあゝああ……」

優歌は気を失った。

「ヒガヤアシャア！！！！」

「ゲアルアガウ……」

気を失う瞬間に黒い獣が白い化け物に飛び掛かるのをみた。が、優歌は眠りについた。

7月27日

ある街に一人の男がきていた。

その男は身長170cmくらいの引き締まった体をしていて、髪はほんの少し長めで、綺麗な青色だ。

彼は周りをみて、

「どこにある……………」

何かを探していた。

ダッ!

そこに一匹の狼がきて

「ヤオト…ヤツノ、ケハイガスル」

「ああ、行くぞ!」

ダッ……………

シュッ……………

「…………イタ」

「!……………」

夜音とフェルは壊れたコンビニの前に来た。

その中に、頭が花になっている白い蛇の化け物がいた。

「雑種か?」

「ザッシュダ!」

二人は白い化け物をみてそう言った。

「あと、人がいるな!」

「やめて…ゆ許して、お願い!……………いいやあ、ああ……………」  
コンビニの中から悲鳴が聞こえた。

「助けるぞ!」

二人は飛び出した!

ザッ！  
シュ！

「ヒガヤアシャア！！」

「ゲアルアガウ…」

ドン！！ガツシャンバヤバキ！！

フェルは化け物に突撃した！！！！

化け物は吹っ飛び壁を破壊して外に出た。

その間に夜音は少女を助け出した。

「ビシャアルヤ」

「ゲアルアガウ」

蛇《白い化け物》とフェルは威嚇しあっていた。

そしてフェルが

「ドウダ…ヤオト」

と聞いた。

すると夜音は

「そいつは違う、殺せ…！」

「ツシヤア」

ジャ！！

いきなり、蛇は頭の花から蜜のようなものを夜音達に飛ばしてきた。

ジュワ！

しかし、そこに夜音達はもついなかった！

ザッ！

夜音は10m後方に下がっていた！

フェルはすでに 蛇の後ろに回って噛み付こうとしている。

「ゲルアあ」

「ンツシヤア」

ベシヤ！！

だが蛇は尻尾でガードした。

ズダツ！！

フェルはいったん距離を置いて、蜜がかかった場所をみた。

その場所は、すべてがドロドロになってとけていた。

「おい、フェル…遊ぶなよ！」

夜音は笑いながら言った。

「ワカッテル！ スグニオワラセル…」

フェルはそう言っつて構えた！

グッ！

蛇はもう一度蜜をだそうとした。

その時、フェルが一瞬で消えた！！

シュツ…

いや、消えた様に感じるスピードで蛇に体当たりをかました！

バツ ドシヤアン！！

「ンがっハ」

その勢いのまま噛み付き

ガユジユ！！…バチブチヒヤチュ！

食いちぎった！！

「んぎゃあー……」

ビチャビチ！…ぶる……ピク……シュワ！

蛇は黒い霧になって消えた。

「タシカニ…コイツハハズレダ」

フェルは月をみながら呟いた。

「…………フェル、行こう」  
「アア…ソイツハ？」  
「連れていくさ！」  
『……………すう』

優歌と夜音は出会ってしまった。

そして、世界の歯車がまたずれた…………。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1047y/>

---

レクイエム

2011年11月1日02時09分発行